

# 鈴鹿短期大学生の保健調査

杉 谷 昌 代

## Studies of the Cornell Medical Index Method in Suzuka Junior College

Masayo SUGITANI

### I. 緒 言

学校保健法施行規則第8条第2項<sup>1)</sup>によると、同法第6条に定められた定期健康診断を円滑に実施するため、入学時及び必要と認める時に、児童・生徒・学生または幼児の発育・健康状態等に関する調査を行うものとしている。

そこで各大学では、学生部または保健管理センターを中心に大学生の健康調査を行い、学生生活の充実と援助を図っているところが多い。

健康調査は身長・体重・50m走・握力など計測し、身体的機能状態を調べる方法と、苦痛・緊張・不安などの精神心理状態を調べる方法がある。後者の精神心理状態の健康調査法として Cornell Medical Index (以下 C. M. I. と略す) が広く利用され、学校・工場などの保健活動に有用な価値が認められてきた。

保健管理センターでは、学生の精神健康の実態を把握し、その増進を援助し、充実した学生生活が送れるようにすることを業務の一つとしている。そのため、精神健康の実態を把握し、更に精神的不健康者、あるいはその恐れのある者を早期に発見し、援助の手を差し向けることは非常に大切なことである。このような目的のために、毎年新入生に対し、スクリーニング・テストとして精神健康調査である C. M. I. を実施し、これに基づいた相談を行っている。

コーネル医学指数は、アメリカの Brodman ら<sup>2)-8)</sup> によって考案されたもので、日本では九州大学の深町ら<sup>9)10)</sup> によって昭和34年頃より研究され、近年数多くの人々の情緒障害判別に活用され、保健管理など広く応用されている。

そこで今回、平成3年度に鈴鹿短期大学に在籍した学生について実施した、同調査法による調査結果について検討した。これらの調査結果には、非常に興味ある保健管理上の問題が含まれているのでここに報告する。

### II. 調査対象と調査方法

#### 1. C. M. I. の調査対象

調査対象集団は、平成3年度鈴鹿短期大学に在籍する学生で、平成2年度入学の学生（以下

2年生と略す) 372名, 及び平成3年度入学の学生(以下1年生と略す) 406名, 計778名とした。

## 2. C. M. I. の調査方法

C. M. I. のアンケート調査は, 毎年入学時に, 新入生に対し健康診断と平行しておこなった。

## 3. C. M. I. の構成

Brodman の原型による C. M. I. は, 総設問数195項目により構成されている。しかし調査を行うにあたり<sup>2)</sup>, 記入が容易とはいえ質問数が多いために30分以上の記入時間を要することから, その簡易化については, 早くから様々な試みがなされている<sup>11)</sup>。本調査では, 従来より鈴鹿短期大学で実施されている簡易型質問紙を用いた。

表1に示すように, 本学における簡易型の C. M. I. は130項目よりなる。質問事項は, A (神経感覚系) 15項目, B (呼吸器系) 15項目, C (心臓血管系) 15項目, D (消化器系) 15項目, E (歯科) 10項目, F (皮膚筋肉骨格系) 10項目, G (泌尿生殖器系) 10項目, H (全身状態及び疲労度) 10項目, I (不適) 5項目, J (抗鬱) 5項目, K (不安) 5項目, L (敏感) 5項目, M (憤怒) 5項目, N (緊張) 5項目の14領域で, A～Hの身体的愁訴と, I～Nの精神的愁訴によって構成されている。

表1. 簡易型 C. M. I. の項目内容

保 健 調 査 表 鈴鹿短期大学			
④ですから秘密は厳守されますから安心してありのまま記入してください。		23 咳ばらいをよくするか……………	はい いいえ
記入日付・昭和 年 月 日 学 科 ( )		24 いつも鼻汁がでてこまるか……………	はい いいえ
氏 名 ( ) 男・女 コース ( )		25 いつも鼻がつまるか……………	はい いいえ
生年月日・明・大・昭 年 月 日生 席番 ( )		26 時々鼻血がでるか……………	はい いいえ
次の質問の全部に, はい, いいえのいずれかを必ず○印にかこんでお答えください。		27 結核にかかったことがあるか……………	はい いいえ
		28 喘息があるか……………	はい いいえ
		29 扁桃腺でしばしば熱をだすか……………	はい いいえ
		30 時々ひどいねあせをかくか……………	はい いいえ
A		C	
1 眼が痛んだり, 赤くなることあるか……………	はい いいえ	31 時々手足がはれるか……………	はい いいえ
2 読書に眼鏡がいるか……………	はい いいえ	32 近頃尿の出方がめだって少ないか……………	はい いいえ
3 遠くをみるのに眼鏡がいるか……………	はい いいえ	33 尿の出方が昼少く夜多いか……………	はい いいえ
4 耳が遠いか……………	はい いいえ	34 三階位の階段をあがると心臓がおどってこまるか……………	はい いいえ
5 耳だれがあるか……………	はい いいえ	35 あわてて仕事をすると息切れがするか……………	はい いいえ
6 耳のなりすることがあるか……………	はい いいえ	36 時々, すわっているだけで息切れがするか……………	はい いいえ
7 頑固な頭痛になやむことがあるか……………	はい いいえ	37 後頭部が重く, 肩がこるか……………	はい いいえ
8 しばしば目まいがするか……………	はい いいえ	38 胸部に圧迫感があるか……………	はい いいえ
9 気の遠くなるように感じることがあるか……………	はい いいえ	39 時々脈のみだれることがあるか……………	はい いいえ
10 今までに2回以上も気を失ったことがあるか……………	はい いいえ	40 血圧が高いと医者にいわれたことがあるか……………	はい いいえ
11 体のどこかが常にしびれているか……………	はい いいえ	41 血圧が低いと医者にいわれたことがあるか……………	はい いいえ
12 ひきつけたことがあるか……………	はい いいえ	42 心臓がドキドキとうってなやまされることがあるか……………	はい いいえ
13 言葉がどもってこまるか……………	はい いいえ	43 暑い季節にも手足が冷えるか……………	はい いいえ
14 ザをグというように発音にときどきあやまりがあるか……………	はい いいえ	44 医者に心臓がわるいといわれたことがあるか……………	はい いいえ
15 乗物に酔いやすいか……………	はい いいえ	45 時々体がふらつくか……………	はい いいえ
B		D	
16 かぜにかかること長びくか……………	はい いいえ	46 便秘になやむことがあるか……………	はい いいえ
17 ひどいかぜをよくひくか……………	はい いいえ	47 いつも大便の性状がわるいか……………	はい いいえ
18 常に咳になやむか……………	はい いいえ	48 いつも下痢をしがちか……………	はい いいえ
19 時々微熱がでるか……………	はい いいえ	49 便秘したり下痢したりでこまるか……………	はい いいえ
20 時々胸が痛むことがあるか……………	はい いいえ	50 たびたび腹痛があるか……………	はい いいえ
21 いつも痰がでるか……………	はい いいえ	51 おなかがすきににくいのか……………	はい いいえ
22 痰に血液がまじることがあるか……………	はい いいえ	52 時々ひどい胃痛になやまされることがあるか……………	はい いいえ

53	食後に胸やけ、ゲップがおこるか	はい	いいえ	
54	舌がいつもあれているか	はい	いいえ	
55	胃部がなんとなく気になってしかたがないか	はい	いいえ	
56	常時胃の具合がわるいか	はい	いいえ	
57	家系に胃癌があるか	はい	いいえ	
58	寄生虫がいたことがあるか	はい	いいえ	
59	痔があるか	はい	いいえ	
60	貧血や肝臓の病気にかかったことがあるか	はい	いいえ	
E				
61	歯ぐきに出血があるか	はい	いいえ	
62	口がくさいか	はい	いいえ	
63	歯に冷いものがしみるか	はい	いいえ	
64	かむと歯がいたむか	はい	いいえ	
65	歯そう膿ろうといわれたことがあるか	はい	いいえ	
66	治療してないむし歯はあるか	はい	いいえ	
67	歯が半分以上もぬけているか	はい	いいえ	
68	歯石はとったことがないか	はい	いいえ	
69	歯ならびがわるいか	はい	いいえ	
70	歯ぐきがはれたことがあるか	はい	いいえ	
F				
71	関節が痛んでほれたことがあるか	はい	いいえ	
72	重い神経痛やリュウマチでなやむことがあるか	はい	いいえ	
73	腕や足の力がよわいか	はい	いいえ	
74	筋肉や関節が常にこわばっているか	はい	いいえ	
75	不具や体のどこかきかない所があるか	はい	いいえ	
76	背中や腰の痛みで仕事やりにくい	はい	いいえ	
77	発疹やみみずばれで困ることがあるか	はい	いいえ	
78	できものができやすいか	はい	いいえ	
79	切り傷がなおりにくい	はい	いいえ	
80	皮膚が敏感で弱いか	はい	いいえ	
G				
女子のみ	81	月経時痛みを感じるか	はい	いいえ
	82	月経時いつも気分がわるいか	はい	いいえ
	83	月経中よく床につくか	はい	いいえ
	84	尿に血のまじったことがあるか	はい	いいえ
男子・女子共通	85	尿のでぐあいわるいか	はい	いいえ
	86	尿をだす時にやけるように痛むか	はい	いいえ
	87	夜中に尿におきるか	はい	いいえ
	88	尿の色が赤黄色になったことがあるか	はい	いいえ
	89	顔がむくんでいるといわれたことがあるか	はい	いいえ
	90	腎臓か膀胱がわるいといわれたことがあるか	はい	いいえ
H				
91	なんとなく体の調子がわるいか	はい	いいえ	
92	体重が2キロ以上も減ったか	はい	いいえ	
93	朝から体がだるいか	はい	いいえ	
94	近頃顔色が青白くなったか	はい	いいえ	
95	時々急に疲れきってしまうことがあるか	はい	いいえ	
96	僅かな仕事でも根気がなく疲れやすいか	はい	いいえ	
97	疲れすぎて食欲がないか	はい	いいえ	
98	睡眠が十分とれないか	はい	いいえ	
99	時々病気になるか	はい	いいえ	
100	虚弱な体質と思うか	はい	いいえ	
I				
101	試験や質問をうけると汗をかいたり、ふるえたりするか	はい	いいえ	
102	ゆっくりしないと間違いやすいか	はい	いいえ	
103	決断がつきにくい	はい	いいえ	
104	助言者にそばにいてもらいたい	はい	いいえ	
105	会合で孤独感を感じるか	はい	いいえ	
J				
106	いつもおもしろくなく気がふさぐ	はい	いいえ	
107	時々泣ける	はい	いいえ	
108	いつも憂うつ	はい	いいえ	
109	人生に全く希望を失った	はい	いいえ	
110	死んでしまいたいと思ったことがある	はい	いいえ	
K				
111	こまかいことが気になる	はい	いいえ	
112	神経質だといわれる	はい	いいえ	
113	神経衰弱になったことがある	はい	いいえ	
114	神経科で治療を受けたことがある	はい	いいえ	
115	家族のだれかが精神科で治療を受けたことがある	はい	いいえ	
L				
116	極端なほにかみや	はい	いいえ	
117	批評が気にかかる	はい	いいえ	
118	自分が気むつかしやと思う	はい	いいえ	
119	感情を害しやすい	はい	いいえ	
120	他人に誤解されやすい	はい	いいえ	
M				
121	友人に気をゆるさない	はい	いいえ	
122	すぐ気がいらだつ	はい	いいえ	
123	いつも自制していないと失敗する	はい	いいえ	
124	ちょっとしたことですぐ怒る	はい	いいえ	
125	指図されると怒りたくなる	はい	いいえ	
N				
126	緊張するとふるえる	はい	いいえ	
127	どなりつけられるとすぐむか	はい	いいえ	
128	おそろしい夢で時々目がさめる	はい	いいえ	
129	おそろしい考えが心をかすめることがある	はい	いいえ	
130	時々わずかなことでおびえる	はい	いいえ	

以上の他に身体的精神的なやみがあれば記入してください。

既往症を記してください。

	血液型	ツベルクリン反応

### Ⅲ. 調査結果

平成3年度に在籍する学生778名の、C. M. I. を調査した結果は次のようである。

#### 1. 愁訴数

##### 1) 項目別 身体的・精神的愁訴数

各学科・コース毎の愁訴数を、年度別に表2（2年生）、表3（1年生）に示す。

表 2. 項目別身体的・精神的愁訴数

実施年	学科・コース	学生数	項 目														総 計	
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N		
平成 2 年 4 月	服飾科学 コース	40	2.1	1.1	0.9	1.4	2.0	0.8	1.1	1.7	1.4	0.7	0.7	0.8	0.7	1.3	(16.6)	
	( 5.6)																	
	生活学 科	養護教諭 コース	69	1.9	1.2	0.7	1.7	1.9	0.7	1.3	1.4	1.7	0.7	0.7	1.0	0.6	1.2	(16.6)
			( 5.8)															
	食 文 化 コース	43	2.1	1.1	0.6	1.5	1.4	0.9	1.0	1.3	1.6	0.8	0.7	1.2	0.7	1.4	(16.4)	
			( 6.4)															
	栄 養 士 コース	51	2.1	0.8	0.9	1.3	1.7	0.7	1.3	1.0	1.7	0.5	0.8	1.1	0.7	1.2	(15.7)	
			( 6.1)															
	学科平均	203	2.0	1.0	0.8	1.5	1.8	0.7	1.2	1.3	1.6	0.7	0.7	1.0	0.7	1.3	(16.3)	
			( 6.0)															
商 経 学 科	男 子	49	1.6	1.0	0.5	0.6	1.3	0.6	0.2	1.6	1.3	0.4	0.6	0.6	0.6	(11.4)		
			( 4.0)															
女 子	120	2.0	1.2	0.8	1.4	1.7	0.9	1.2	1.3	1.5	0.6	0.7	1.1	0.6	1.2	(16.1)		
		( 5.7)																
学科平均	169	1.9	1.2	0.7	1.2	1.6	0.8	0.9	1.4	1.4	0.5	0.7	0.9	0.6	1.0	(14.7)		
		( 5.2)																
平 均	372	2.0	1.1	0.7	1.3	1.7	0.8	1.0	1.3	1.5	0.6	0.7	1.0	0.6	1.2	(15.6)		
		( 5.6)																

表3. 項目別身体的・精神的愁訴数

実施年	学科・コース	学生数	項目														総計
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
平成30年4月	生活学科	服飾科学コース	2.3	1.3	0.8	2.0	1.6	1.0	1.2	1.1	1.4	0.8	0.6	1.1	0.6	1.3	(17.0)
			(11.2)														
		養護教諭コース	1.7	1.0	0.6	1.6	1.6	0.5	1.3	0.9	1.7	0.8	0.8	1.0	0.7	1.0	(15.2)
			(9.3)														
		食文化コース	2.0	1.1	0.6	1.4	1.5	0.5	0.9	0.8	1.7	0.4	0.6	1.0	0.5	1.1	(14.0)
			(8.8)														
	商経学科	栄養士コース	2.0	1.0	0.9	1.4	2.3	0.8	1.1	1.1	1.7	0.4	0.6	1.1	0.6	1.1	(16.1)
			(10.6)														
		学科平均	1.9	1.1	0.7	1.6	1.8	0.7	1.2	1.0	1.6	0.6	0.7	1.0	0.6	1.1	(15.6)
			(9.8)														
		男子	2.2	1.4	1.0	0.9	2.0	0.8	0.3	1.4	1.3	0.5	0.8	0.8	0.7	0.8	(14.7)
			(10.2)														
平均	女子	1.9	0.8	0.8	1.6	2.2	0.7	1.1	1.2	1.7	0.6	0.7	1.0	0.5	1.3	(16.1)	
		(9.8)															
	学科平均	2.0	1.0	0.8	1.3	2.2	0.7	0.8	1.3	1.6	0.6	0.8	1.0	0.6	1.1	(15.6)	
		(10.1)															
	平均	1.9	1.1	0.7	1.5	1.9	0.7	1.0	1.1	1.6	0.6	0.7	1.0	0.6	1.1	(15.6)	
		(9.9)															

表2より、2年生1人当たりの愁訴の総計の多い順にみると、生活学科では、服飾科学コース及び養護教諭コース、食文化コース、栄養士コースの順であった。商経学科では、女子に比して男子の方がやや低率を示した。

また、学科平均においては、商経学科（14.7）に比して生活学科（16.3）が、1人当たり1.6の項目の割合で高率を示した。

項目別には、身体的愁訴において、項目A（神経感覚系）、E（歯科）、D（消化器系）、H（全身状態及び疲労度）の順に愁訴が多く、精神的愁訴では、I（不適）、N（緊張）、L（敏感）の順に愁訴数が多かった。

表3より、1年生1人当たりの愁訴の総計の多い順にみると、生活学科では、服飾科学コース、栄養士コース、養護教諭コース、食文化コースの順であった。商経学科では、女子に比して男子の方がやや低率を示した。

また、学科平均においては、商経学科・生活学科共に（15.6）であった。

項目別では、身体的愁訴において、項目A（神経感覚系）、E（歯科）、D（消化器系）の順に愁訴が多く、精神的愁訴では、I（不適）、N（緊張）、L（敏感）の順に愁訴数が多かった。

## 2) 男女別愁訴数

男女別愁訴数を表4、表5に示す。

表4. 男女別身体的・精神的愁訴数

実施年	性別	学生数	身体的愁訴数	精神的愁訴数	合計
1990年	女	323	10.4	5.9	16.2
	男	49	7.3	4.0	11.4
	計	372	10.0	5.6	15.6
1991年	女	335	10.0	5.8	15.8
	男	71	9.5	4.8	14.4
	計	406	9.9	5.6	15.6

表5. 男女別身体的・精神的愁訴数

実施年	学科	性別	学生数	身体的愁訴数	精神的愁訴数	合計
1990年	生活	女	203	10.4	6.0	16.3
		男	49	7.3	4.0	11.4
	商経	女	120	10.3	5.7	16.1
		男	49	7.3	4.0	11.4
1991年	生活	女	218	9.9	5.7	15.7
		男	66	9.8	4.9	14.7
	商経	女	117	10.2	5.9	16.1
		男	66	9.8	4.9	14.7
		計	406	9.9	5.6	15.6

表4より男女別愁訴数では、1・2年生共に男子よりも女子においてやや高率を示した。また、表5より女子学生については、学科による差異は余り認められなかったが、生活学科男子に比して商経学科男子では、1人当たり4.5項目の割合で高率を示した。

## 2. 血液型構成

調査対象集団の血液型構成を表6、表7に示す。

表6. 調査対象在学生血液型構成

実施年	学科	コース	A	B	O	AB	合計
1990年	生活	服飾科学	9	8	10	1	28
		養護教諭	20	16	12	2	50
		食文化	7	4	4	2	17
		栄養士	15	7	11	3	36
		計	51	35	37	8	131
	商経		41	26	33	11	111
		計	92	61	70	19	242
1991年	生活	服飾科学	0	0	0	0	0
		養護教諭	15	9	15	4	43
		食文化	2	0	2	0	4
		栄養士	4	0	5	1	10
		計	21	9	22	5	57
	商経		26	8	82	5	121
		計	47	17	104	10	178

表7. 調査対象男女別血液型構成

実施年	性別	A	B	O	AB	合計
1990年	女	86	56	59	16	217
	男	6	5	11	3	25
	計	92	61	70	19	242
1991年	女	46	17	38	10	111
	男	1	0	66	0	67
	計	47	17	104	10	178

表6より1年生については、A、O、B、ABの順に占有率が多く、2年生については、O、A、B、ABの順であった。

また、表7より性別では女子においてはA、O、ABの順に占有率が多く、男子については、O、A、B、ABの順であった。

血液型別の身体的・精神的愁訴数を表8に示す。

表 8. 血液型別 身体的・精神的愁訴数

実施年	血液型	学生数	身体的愁訴数	精神的愁訴数	合計
1990年	A	92	11.3	6.6	17.9
	B	61	10.2	5.4	15.6
	O	70	9.2	4.5	13.7
	AB	19	10.2	5.9	16.1
	計	242	10.2	5.6	15.8
1991年	A	47	9.4	5.2	14.5
	B	17	10.8	6.1	16.8
	O	104	10.5	5.3	15.8
	AB	10	8.2	7.2	15.4
	計	178	9.7	6.0	15.7

表 8 に示すように血液型別の愁訴数総計では、1 年生では、A, AB, B, O の順に多く、2 年生では B, O, AB, A の順であった。

#### IV. 考 察

C. M. I. によって、本学における保健調査の実態を述べた。

愁訴数では、1・2 年共に服飾科学コースが最高値を示した。また、学科による差異としては、2 年生についてはやや生活学科において高率を示したが、1 年生については差異が認められなかった。

男女別の愁訴数では、2 年生では、1 人当たり 4.7 項目の割合で女子に愁訴数が多く、1 年生でも 1 人当たり 1.4 項目の割合で女子における愁訴が多かった。

生活学科男子では、例数が少なく断定するには問題があるが、2 年生に比して 1 年生では生活学科にも男子学生が入学していることから、学科による差異が縮小されたものと思われる。

また、愁訴項目では 2 学年ともに、身体的愁訴において、項目 A (神経感覚系), E (歯科), D (消化器系), H (全身状態及び疲労度) の順に愁訴が多く、精神的愁訴では、I (不適), N (緊張), L (敏感) の順に愁訴数が多かった。これは、調査が 4 月～5 月という比較的早い時期に行われたため、入学後間もない新入生には多くの悩みや不安等のあることが推察される。そのため、これらがストレスとなって愁訴数の増大につながったものと思われる。しかしこれらの愁訴数は、春・夏・秋・冬と時を経るに従い環境に適合し、また、学年が進むに従って愁訴数が減少していくことを篠田等<sup>12)</sup>が報告している。

これらのことは、本学においても同様のものと推察されるが、保健管理上今後更に追跡調査を行う必要がある。

血液型による愁訴数分類では、2 年生では A 型 (17.9) が最高値を示し、以下 AB, B, O



の順であった。1年生ではB, O, AB, Aの順であったが、愁訴数と血液型の相関性については、例数も少なく個人の適応性の問題も含んでいることから、ここでは言及できない。

また、今回は実施することはできなかったが、深町<sup>10)</sup>の判定基準による神経症分類によると、5%の有意水準で神経症といえる領域：第Ⅳ群については、不適・抗鬱・不安・敏感・憤怒・緊張といった状況が重なり、精神的に不快な状態にあることが推察される。また、神経症者と心理的正常者では、愁訴項目において次のような差異が認められることが報告されている。すなわち身体的愁訴では、神経症者に多い項目として、自律神経の機能異常・疲労度に関するもの・疾病に関する関心の度合いがあげられるが、精神的愁訴においては、特に際だった傾向というものは示されず、全般的に心理的正常者に比して高率の解答が得られたというものである。これらのことから、第Ⅳ群に含まれる学生については、追跡調査や呼出面接などによるカウンセリングが必要と思われる。また、どちらかといえば神経症といえる領域：第Ⅲ群に含まれる学生についても、その後の追跡調査や学生相談・保健指導が望まれる。以上のことを考え合わせた上で、今後神経症分類についても実施・検討していくことが必要である。

その他、現行の簡易型C. M. I. では、質問項目の他に血液型を記入させているが、小沢<sup>13)</sup>（名古屋女子大学）は自宅通学か自宅外かについても記入させ、その結果についても、検討している。これらの報告は、保健管理上、学生の実態を把握するという点において非常に興味深い。そのため、本学においても今後質問項目以外の記入事項に加えていくことを提案したい。

## V. ま と め

本学における保健調査の実施結果及びその活用について考察した。

その結果次のような結果が得られた。

1. 1人当たりの愁訴数は2年生・1年生ともに15.6となった。
2. 1人当たりの身体的愁訴数は2年生で10.0, 1年生9.9であった。また、精神的愁訴数は2年生で5.6, 1年生5.6であった。
3. 項目別の愁訴数では、1・2年ともに身体的愁訴において項目A（神経感覚系）、E（歯科）、D（消化器系）、H（全身状態及び疲労度）、精神的愁訴では、I（不適）、N（緊張）、L（敏感）において高値を示した。
4. 男女別の愁訴数比較では、男子よりも女子の方に愁訴が多くみられた。

また、例数は少ないが、生活学科男子よりも商経学科男子に愁訴数が多く見られた。女子には学科による差異は認められなかった。

5. 血液型構成では、2年生ではA, O, B, ABの順で、1年生ではO, A, B, ABの順であった。なお、血液型と愁訴の相関性については、個人の適応性の問題も含んでいる上に例数も少なく言及できなかった。

6. 今後の課題として、神経症分類の実施及び追跡調査・呼出面接等によるカウンセリングの実施など、保健指導面から援助を図る必要がある。
7. 提案事項としては、C. M. I. の質問項目に加え、従来の血液型の記入のほかに自宅通学か自宅外かについても記入させることが考えられた。これらの記入によって、今後調査結果と生活環境の両面から、よりの確に学生の実態を把握できるという効果が期待できる。
- 最後に、本研究を進めるに当たって、ご指導・ご助言を賜りました塩見俊朗先生をはじめ、保健委員会の先生方に対し深謝致します。

## 参考文献

- 1) 兼子 仁編：教育小六法，学校保健法施行規則第8条の2，学陽書房，249，1988
- 2) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I and Wolff HG: The Cornell Medical Index, an adjunct to medical interview, J. A. M. A., **140**, 530-534, 1949.
- 3) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, II. As a diagnostic instrument, J. A. M. A., **145**, 152-159, 1951.
- 4) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I, Gershenson C and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, III. The evaluation of emotional disturbances, J. Clin. Psychol., **8**, 119-124, 1952.
- 5) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I, Gershenson C and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, IV. The recognition of emotional disturbances in a general hospital, J. Clin. Psychol., **8**, 289-293, 1952.
- 6) Erdman AJ Jr, Brodman K, Lorge I and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, V. The outpatient of a general hospital, J. A. M. A., **149**, 550-551, 1952.
- 7) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, VI. The relation of patients' complaints to age, sex, race and education, J. Gerontology, **8**, 339-342, 1953.
- 8) Brodman K, Erdman AJ Jr, Lorge I, Deutschberger J and Wolff HG: The Cornell Medical Index - Health Questionnaire, VII. The prediction of psychosomatic and psychiatric disabilities in army training, Amer. J. Psychiatry, **111**, 37-40, 1955.
- 9) 深町 健：Cornell Medical Index の研究，第1報．C. M. I. よりみた神経症者の自覚症の特性，福岡医学雑誌，**50**，2988-3000，1959.
- 10) 深町 健：Cornell Medical Index の研究，第2報．C. M. I. による神経症者の判定基準について，福岡医学雑誌，**50**，3001-3009，1959.
- 11) 松井 清夫ほか：コーネル医学指数の簡易改良とその応用，第1報．簡易化について，日本公衛誌，**9**，337-340，1959.
- 12) 篠田昭八郎ほか：岐阜工業高等専門学校生の健康調査について，岐阜工業高等専門学校紀要，**16**，37，1981.
- 13) 小沢 教子，山崎 旭男：名古屋女子大学短期大学部の健康調査について，名古屋女子大学紀要，No.30，51-60，1984.